岩手県総合計画審議会
令和４年度第６回県民の幸福感に関する分析部会

（開催日時）令和４年 10 月 24 日（月）９：30～12：00
（開催場所）エスポワールいわて　３階　特別ホール

１　開　会
２　議　題
　(1)　分野別実感の分析について
　(2)　令和４年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート（案）について
　(3)　令和５年県民意識調査（補足調査）について
　(4)　その他
３　閉　会

出席委員等
　吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、
　Tee Kian Heng（ティー・キャンヘーン）委員、山田佳奈委員、和川央委員
欠席委員等
　広井良典オブザーバー

１　開　会

○高橋政策企画課評価課長　それでは、ただいまから第６回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画課の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

本日は広井オブザーバーが欠席しておりますが、運営要領第６条第２項に基づきまして、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

なお、本日は竹村委員、若菜委員がリモートにより御出席いただいております。

それでは、開会に当たりまして、政策企画課の総括課長、竹澤より御挨拶申し上げます。

○竹澤政策企画課総括課長　本日は、お忙しい中、朝早くから御出席を賜り大変ありがとうございます。本日の会議は、今年度の年次レポート（案）の内容について御審議いただき、併せて、来年１月に実施する県民意識調査等の見直しについても御意見を伺うこととしております。

現在、県は、第２期アクションプランの策定を進めているところであり、幸福部会の審議

内容を反映した政策評価も踏まえて策定することとしておりますので、本日はその内容についても御説明をさせていただきたいと考えております。

いわての幸福に関する指標研究会からはじまり、第１期、第２期と計画策定、計画推進に皆さんの御協力をいただいていることに改めて感謝申し上げます。

本日は様々な御意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋政策企画課評価課長　それでは、運営要領第４条第４項の規定によりまして、部会の議長は部会長が務めることとされておりますので、以降の進行につきましては吉野部会長、よろしくお願いいたします。

２　議　題

（１）分野別実感の分析について

○吉野英岐部会長　それでは、まだリモートで入ってこられませんが、時間もありますので、始めたいと思います。お手元に資料が配付されていると思いますので、それに従って進めます。

議題（１）、まず分野別実感の分析について、ここでは幸福について考えるワークショップの結果が前回報告をされて以降の結果について、事務局より説明をお願いしたいと思います。

○池田政策企画課特命課長　政策企画課の池田です。よろしくお願いいたします。

それでは、座って御説明させていただきます。私から資料１に基づいて内容を御説明させていただきたいと思います。

幸福について考えるワークショップにつきましては、前回部会において、第６回までの開催結果について御報告させていただいておりましたので、今回は、第７回、第８回の結果について御報告させていただきます。資料につきましては、灰色に着色した部分がその対象であり、第７回が県央の滝沢市で、第８回が沿岸の陸前高田市で開催されました。

「地域社会とのつながり」についてですが、第７回では、定年後移住者が適度な距離感と感じている人がいる一方で、子育て期には関わりが強まるものの、それが終わると関わりが減ってしまうという意見が見られています。また、通勤等も含めた若い世代の生活スタイルが変化していると感じている方や、参加・不参加の二極化が進んで、関わらないことが不利益ではないと考えている人がいるのかもしれない等の意見がありました。

第８回では、そもそもつながりが減ったという感覚がない人がいますし、地元のつながりが強いことから、人間関係を大事にすればなんとかなると考える人がいるほか、移住者側としても、移住者には寛容で、受け入れてくれる温かさを感じている人がいました。

一方で、地域活動への参加が面倒だと感じる人やお嫁さんに来た方が女性社会に溶け込

めるかどうかが大事などの意見がありました。

次に、「必要な収入や所得」については、第７回において、消費税や物価の上昇に伴う支出が増加していると感じている人や、それに伴って生活レベルの維持に不安を感じている人、コロナ禍により収入が減った人がいるほか、社会保険料が上昇しても年金が減少していると感じている人がいました。また、米価の下落や、子育てによる支出増などにより、将来的な不安を抱えている人がいました。第８回では、移住によって収入が減ったものの、食費等は移住前と変わらないと感じている人がいるほか、支出が増えたという意見がある一方で、お金がなくてもなんとかなりそうと感じている人や、ウニのおすそ分けが回ってきたり、食べ物の質が高い等の意見がありました。

このほか、買い物は、インターネットがあるから不便がないという意見や、おすそ分け文化等があり、商売があまり得意ではないのではないか等の意見もありました。

事務局からの説明は以上です。

○谷藤邦基委員　一連のワークショップで出た「必要な収入や所得」に関するコメントをみていると、物価の上昇やその他の要因により支出が増えている一方、賃金が上がらない、あるいは年金が減っているといった内容のものが増えてきた感じがします。

物価の上昇や賃金等の問題は次回以降の調査で実感を低下させる方向に働く可能性が高いので、注視が必要だと思います。

日銀は、物価の上昇分が労働者に還元されて、賃金が上がるようなイメージを持っているようですが、多くの企業ではそのような動きにはならないと思っています。

というのも、企業物価指数が先行して相当上がっていたところで、このところようやく消費者物価指数が上がってきたわけですが、これは企業が消費者への価格転嫁を避けるために原材料価格等の上昇を人件費やその他の経費を抑制して吸収するという企業努力をしてきたからで、それがついに限界に達して消費者物価が上がり始めたということだと思われます。

そうすると、物価が上昇したとしても、企業としては最低限の利益を確保するのが精いっぱいで、一部の余裕のある企業を別にすれば、ほとんどの場合は賃金の引き上げまでは難しいだろうというのが私の認識です。

結果として、次回の調査では「必要な収入や所得」に関する実感が大きく低下する可能性が高いと思っています。

これは現場の人間としての感覚です。理論的な話ではないです。

ま、いずれそういうことでですね、その辺は県として何ができるかっていうとできることほとんどないのですが、それを承知の上であえて言っているのは、状況の推移ということに注意していって欲しいなということなのですね。

それはぜひお願いしたいと思います。

ちょっと本筋から離れた話を申し上げております。

○吉野英岐部会長　はい。これまでの何年か、10年間ぐらい。20年間くらいですかね。ほとんど物価が上昇しなかったというのは、良い意味でも悪い意味でも変化が少なかったところが、ここ本当１年ちょっとの間で、３％とか、急に目標どころじゃなくなっているぐらい上がっていますので、そういった影響がおそらく県民生活とかですね、皆さんの幸福感にも、何らかの影響、あるいは強い影響を与えるようなことも考えられるということで、お話あったとおり、県としてできることは限られてはいるかもしれませんけれども、こういったことに対しても非常に注意を払っていくような時期に来ているっていうことはおっしゃるとおりかなと思っていました。ありがとうございます。

特に高齢者。

○谷藤邦基委員　ですね。

○吉野英岐部会長　すいません。高齢者っていって。

○谷藤邦基委員　私も前期高齢者になりましたので。

○吉野英岐部会長　高齢者の方々にとって見れば収入はもう上がらない。

○谷藤邦基委員　年金自体は、物価スライドと賃金スライドっていう制度が入っているのですが、例えば今年度の改定は、本来であれば物価上昇分を反映して上がってもよいはずなのですが、賃金が上がってないってことで逆に下がったわけですよね。

調整項目が二つあるというところがポイントで、物価だけの調整であれば間違いなく上がるはずなのですけれど、ただ上がるにしたって上昇率に追いつかないわけですから。そもそもそれがなくても年金だけで暮らすのは大変だって話は前からあったわけですので、この先どういうことになっていくのかっていうのは、なかなか分からないということになっていくだろうなと思っています。

○吉野英岐部会長　はい。特に、岩手県は高齢化率が全国平均に比べましても高いでしょうし、さらに都市と地方の格差といいましょうかね。高齢化率の高い地域というのは、幾つも存在していますので、今のようなお話は、まさに年金でお暮らしになっているような方々にとってみれば、本当に死活問題ということで、本当に大きな問題になるでしょう。

○谷藤邦基委員　すいません。ちょっとプラスで言わせていただくと、今朝の岩手日報にコロナ貸付金の返済免除が1,295億円という記事が出ていまして、おって思って見ていたら、これに岩手県が入っていないのですよね。

岩手県と茨城県を除く各県の社協から回答があったものを集計した数字だということで、岩手県どうなっているのかなというのがちょっと気になっておりまして、この後この会議は今年度もうないので、分かったら教えてくださいというわけにもいかないのですが、そんなこともありましたので、実際コロナで働き盛りの年代でも働けないような状況も起きているというところもあるわけなので、必要な収入や所得のところの実感もこの後どうなっていくのかと非常に心配されるところだなと思っていました。

○吉野英岐部会長　ワークショップではそういう兆しがすでにもう見え始めているということですね。ありがとうございます。

他にワークショップの御感想とか、御意見をいただいた上で、委員の皆さんから、気になるというか、考えていくべき点があればいただきたいと思いますが、若菜先生いかがですか。

○若菜千穂委員　はい。若菜です。

ワークショップについては、私はもう直接関わっていないのですけど、やっているメンバーから、少しお話は聞いていまして、すごく現場の雰囲気が良くて、この幸福っていうキーワードで、こういうことを話できる場っていうのは、ウイズコロナ、アフターコロナを踏まえてすごくいいというお話は聞いていて、そういう意味では、続けていただければなという感じではありましたね。２点なのですけれども、ワークショップの意見、開催したときに、なんとなく属性の偏りというか、災害公営住宅の人とか、移住の人とか、集め方に当たりがあったような話は聞いているのですけど、この資料では、人数だけだったのですが、もし、そういうのがあるのであれば、ちょっと付記した方がこちらも意見が言えるのかなというのが一つと、なければ今のままでいいのですけど。あと、その意見がすごく、なるほどなと思うことが多くて、そうだよなっていう理解も深まる助けになっているのかなと思いつつ、ここだけで、この意見を使うのはもったいないなという、これはすごく良い意見が多いなというふうには思いました。つながりのところもですね。ここで皆さん言うとおりで、コロナによってつながりが、特に町内会・自治会の活動がパタッとなくなりましたので、それが嬉しいと思う若い人と、寂しいなと思う方々と、やっぱり二極化というものがすごく進んだなと。これがこのままの昔のように復活っていうことはないなっていうのがあるので、去年も言ったのですけど、どう岩手らしいつながりを作っていくかっていうのは、何か全県的に打ち出していかないと難しいかなというふうに感じました。

以上です。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。最初の方の質問であるこのワークショップに来ているメンバーの内容というか、それについては、事務局の方で、ちょっと補足できますか。どういった方々が来ている会議だったのか。

じゃお願いします。

○佐々木政策企画課主事　はい。ワークショップ担当しております政策企画課佐々木です。今回御報告させていただいた、滝沢市ですと、自治会の役員の皆様に御参加いただいておりまして、陸前高田市の場合ですと、団体の職員の方や、御意見にもあったとおり、移住されてきた方に参加していただいています。

これまでに御報告させていただいたところでも、商店の経営者の方であったりとか、地域おこし協力隊の方など、幅広い方に御参加いただいております。今年度の特徴といたしましては、比較的 20 代から 40 代の方が、少し多く御参加いただいているところです。

私からの説明は以上になります。

○吉野英岐部会長　開催の仕方って何か特徴がありますか。

○池田政策企画課特命課長　開催の方法といたしましては、市役所さん等の自治体を通して集まっていただくケースと、あとは例えば移住の方々の会合とかそういったものに合わせてやるなど、ちょっとやり方が完全に統一されているわけではないのですが、今回受託されたＮＰＯさんにおいて、会議と合わせて開催するケース、幅広く募集するケースと両方あるということになってございます。

○吉野英岐部会長　若菜さん、よろしいですか。

○若菜千穂委員　これ開催のケースはいいのですけど、このワークショップの開催状況のところに備考か何かをつけて、自治会役員さんとか、ちょっと備考をつけた方がいいかなというふうに思ったということです。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。

○池田政策企画課特命課長　わかりました。資料の体裁につきましては、検討させていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。竹村先生は何か御感想はありますか。

○竹村祥子委員　今のところはありません。

○吉野英岐部会長　はい。あとは会場の皆さんはよろしいですか。それでは、ティー先生。

○ティー・キャンヘーン委員　まず確認ですけども、７回、８回が同日開催となっています

が、いいのですかね。日付は大丈夫。

○池田政策企画課特命課長　はい。同日開催ということで承っております。

○ティー・キャンヘーン委員　はい。ありがとうございます。

何となく地域差があるなっていう感想です。同じ事例でも、何となく回によって大分回答が違ってきたというのはあるので、一概的にくくれないなっていうのが。特に地域のつながりに関しては。

それから、先ほどに関する部分とし、年代でかなり違ってきているっていうふうに感じつつも、実は、８回も若い女性がほとんどなのに、そんな反応がないっていうところもあるので、自分の中でちょっとどういうふうにまとめていいのかなと。ちょっと難しいなっていう。例えば、振興局ごとでもないし、地域ごとでしかないので、少し難しいなっていうのがある。

あと、所得に関しては、谷藤委員から御意見があったように、つい一昨日１ドル150円になったので、感覚的に、どんどん悪くなる一方なのではないかなというところです。

多分、前回谷藤委員からあったのですけど、日本銀行ではどなたも、多分若い職員は誰も利上げという経験をしてないので、多分どうやったらいいのだろうかと、多分上がったら誰かが責任をとらなきゃならないので、失敗したら。

あとは、中小は困るのだろうなというのが感覚的にある。どうしたらいいのだろうねと。感想でした。以上です。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。

後段はね、確かに政策的に利下げあるいはマイナス金利というような超イレギュラーな政策を取り続けてきていましたのでね、利上げをしたことがないって言われると確かにそうかもしれない。そのあたりについては、ちょっと我々専門家じゃないのでなんとも言えませんし、県の責任で利上げをすることもできませんので、そこは何とも言えないことだと思いますが、しばらく経験していなかったことをやらざるをえない状況になってきている。それから、前段のこういう御意見は何を反映しているのか、というかどういったバックボーンがあってこういった声が出てきたということを御理解したらいいのかっていうのは、確かに地域、今、自治体の名前しか出てないですからね。陸前高田市でやったから陸前高田市の声を全部へ拾い集めているというわけでもないでしょうし、年代もそれぞれですのでね。特定の地域の特定の年齢に聞いているってこともないわけじゃないので、なかなかこれは一般化して、県民の声というふうに使うのは、まだ難しいとこあるかなと思いますが、事務局サイド、担当された方はどう思いますか。

○佐々木政策企画課主事　はい。先ほど吉野部会長がおっしゃったとおり、これを一概に県民の声として扱うことは少し難しいところで、特に印象的だったのは、全体的にやはりニー

ズというか、求めているものが違う。実感が違う。参加者的にも若い方から、幅広い年代で御参加いただいていてそこで意見が衝突ということじゃないですけれども、議論があった会もございましたので、地域差、年齢差等を考慮すると、先ほど吉野部会長がおっしゃるとおりだと考えております。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。ティー先生。

○ティー・キャンヘーン委員　私の考え方を整理するっていうのは、助けとなるのであれば、さっき若菜委員が言ったように、もう少し属性を、どういう人が集まったかっていうのがどこかにあれば、多分こういう年代の人は、例えば役員が出て、こういうふうに感じているっていうのがもう少し推測できるようになるので、今回は無理かもしれないですが、次回もしワークショップを開催する、たぶん続けると思いますが、少しどういう方がこの場に来ているのかというのを示していただければ助かると思います。

○吉野英岐部会長　はい。事務局、はいどうぞ。

○池田政策企画課特命課長　はい。御指摘を踏まえまして、属性のところがもう少し見えるような記載方法というものを検討して参りたいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。
はい。ここについては一旦区切りまして、ワークショップを８回ですね、開いていただきましてありがとうございます。
　貴重な記録ですのでこれを残しておいて、やっぱり背景が分かっていると、どうしてこういう形で、こういう年代が多いのかとかね、わかるようにしたのが、後々見たときに助かりますので、その辺よろしくお願いいたします。
　それで御報告が終わりということで、２番目の令和４年度の県民の幸福実感に関する分析部会レポートの案につきまして、こちらも御報告をお願いしたいと思います。

○池田政策企画課特命課長　それでは資料 2-1 に年次レポートの案、資料 2-2 として概要版を御用意させていただいてございます。
　おめくりいただきまして、目次については、前回御議論いただきましたとおり、追加分析の並びを修正させていただいております。実感変動に係る変動要因の分析を行った上で、追加分析１として幸福実感の推移に係る分析、追加分析２として新型コロナウイルス感染症の影響の順に整理してございます。あと、参考４ということで、前回もちょっと御議論があったところですけれども、部会を通して得られた提言ですとか、変動要因の分析への反映とまではいかなかったが重要な内容の御意見等も整理した上で、追加として入れさせていた

だいているというものでございます。

で、修正ございまして、10 ページをご覧いただきたいのですけれども、こちらの方に単純集計として、表３を載せているのですが、すいません、こちらについて一部昨年度のものが混在しておりましたので、今回精査をさせていただいたものをお出しさせていただいてございます。分析に影響があったところが１点ございまして、10 番の「必要な収入や所得」の「あまり感じない・感じない」のところでございます。ここの「ウ」について、今回は、「自分の支出額」と書いていますが、前回までは「自分の金融資産額」となっていたので、こちらの部分について修正をさせていただきます。分析としては一貫して低値で推移している要因ということで、こちらの内容のところについては、「自分の支出額が多いこと」ということで分析結果としての整理をさせていただいております。その部分につきましては、34 ページをご覧ください。34 ページの③のところで、先ほどお話をさせていただきました、自分の支出額のところについての表現というものを整理させていただいておりますので、この件につきましては、今回御審議をしていただきたいと考えてございます。

また、目次のところに戻っていただきたいと思うのですが、目次の次のページ３、資料編ということで皆様お手元には官庁表紙で整理したものを御用意してございます。今回、参考資料の１から８までというのは去年と同じ構成にはなっておりますが、部会の審議の中で出てきた資料を、いろいろ追加させていただいております。

官庁表紙の方をご覧いただきますと、例えば、36 ページ 37 ページあたりからご覧いただきたいのですが、今年の部会の御審議の中で、生活時間の行動に係るところの整理、全体、例えば女性とか、あと 70 歳以上無職・有職の方というような整理をさせていただいたデータですとか、あと近所付き合い等々のつながりの行動の部分の整理をさせていただいた資料等の追加をさせていただいてございます。

今年の御審議で使用した資料を入れましたので、資料編が大体 670 ページぐらいとなっており、大分ボリューム感が出ているという状況になりますが、このような形で、今回、整理をさせていただきたいというふうに考えてございます。概要版についてもそれらに沿った内容で整理しておりますので、今回が最後の御審議となっておりますので御意見をちょうだいできればというふうに考えてございます。

事務局からは以上です。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。

事前にもう委員の方々に見てもらっているところが多いと思いますので、初めて見るものはあまりないと思います。

若干、記載を修正するっていう御提案がありまして、単純なというか昨年の情報と今年の情報が入ってしまったっていうのは単純なことなので、それは今年のバージョンに直していただければそれで構わないと。問題はないと思っています。

一番最後に言ったところでは、この収入所得のところについてはちょっと御意見いただ

いた方がよろしいですか。36 ページあたり、お話ありましたよね。表の 23 のところでいいですか。そちらに並んでいまして、この数字自体は問題がないってことでいいですかね。

○池田政策企画課特命課長　はい。その表現として、「自分の支出額が多いこと」という表現でいっていいかどうかという。

○吉野英岐部会長　太い黒で書いてあるところでしょうかね。表 23 の上の部分ですね。こういった回答した人が、上位３位の項目からということで、太字になっているところですね。「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分と言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多いこと」が一貫して低値で推移している要因と推測されると、この表現でよいかということですね。この点についての今のところ御意見あれば伺います。

補足調査によれば、ですよね。補足調査で出てきた意見をまとめるという。特に問題なければ、このままで。これもう修正済みってことですね、10 ページも。

○池田政策企画課特命課長　はい。そうです。

○吉野英岐部会長　はい。自分の支出額っていうのが、第３番目に入っているっていうことで、ここでは多いってことですかね。支出額が多いということはお金をいっぱい使っているということですね。じゃ、これ、問題なければこれで行きます。そして３個目に御提案のあった資料編の 36 ページ。

これ、要するに余暇時間について、こういう資料としたということでよろしかったでしょうか。こっちに書いてある。

○池田政策企画課特命課長　県民意識調査の結果につきましては、通常ですと、その前の 35 ページまでを掲載してきました。今年の御審議にあたって、様々な資料を御用意させていただきましたので、その内容についてもきちんと参考資料として、資料編の方に追加して、内容を見ていただくときに併せてご覧いただきたいと考えて、資料を追加したものでございます。

○吉野英岐部会長　もともと県民意識調査では、質問として聞いている項目であると。ただ、これまで幸福部会のレポートとして掲載をしてきたものではないけれども、幸福部会のレポートにも関連すると思われる内容なので、この生活時間の推移でしょうかね、区分別生活時間の推移について、平成 31 年から令和４年までの４年間の推移で実態を、棒グラフあるいは帯グラフで表したものが、この 36 ページの表であると。

これ自体は、事実というか、もともと調査で聞いていますので、特段新しい数字を載せて

いるわけじゃないけど、これまでこれ載せてこなかったので、これ載せるということで、御了解いただければということですね。

そういうことですから、載せるという方向でいきたいと思います。じゃ、和川委員。

○和川央委員　先ほどの話戻ってしまうのですが、必要な収入や所得の一貫して低値の要因分析について確認させてください。

レポート 34 ページの要因というのは、令和４年度単年度に低値となった要因ではなくて、平成 28 年から令和４年まで継続して低値で推移している要因ということだったと思います。実際に掲載している要因は、平成 28 年から令和４年までを分析した結果だったのか、令和４年だけを分析した結果だったのか、そこ記憶が曖昧なのですが、いかがだったでしょうか。

○池田政策企画課特命課長　はい。一貫して低値・高値の理由の選定というのは、今までもそうなのですけれども、基本的には、直近の単純集計の結果をもって整理をするということでやってきておりますので、他のところも同じ取扱いということになります。

○和川央委員　とすると、一貫して低値なのだけども、場合によっては去年の理由と今年の理由が変わってくるということなわけですね。

○吉野英岐部会長　変わる可能性もありますね。

○和川央委員　なるほど。

○吉野英岐部会長　同じ人に聞いていますけどね。

○和川央委員　一貫して低値だと理由も一貫して同じなのかな、変化したとしてもそれなりに理由が継続してもいいのかなと思ったのですが、まずそういう分析をしたのであれば結構です。

○吉野英岐部会長　基本は、その当該年度、調査の時の低値でつける理由として挙げていただいているものを、ここでは載せていると。そういう解釈で載せると。

本人は一貫した低値かどうか覚えてないから分からないかもしれませんが。いいですか。

○和川央委員　はい。

○吉野英岐部会長　じゃ、谷藤委員。

○谷藤邦基委員　34 ページのところは、和川さんの話とはちょっと違う話だけれども、いわば表現です。私も最初あまり気にしないでこれでいいかなと思っていたのですが、改めて考えてみるとですね。単純に支出額が多いっていうことで書いてしまって本当に大丈夫かなって言う懸念があってですね。確かに収入に比べて支出額が多いっていうケースはあり得ると思うのですけど、それだけかなと。もう一つあるのは、十分な支出ができないっていうのがありそうな気がするのですよね。

これだけ支出したいのだけども収入がないからできないのだというようなこともありそうな気がしまして、だからちょっと冗長になるのでもやむを得ないということであれば、自分の支出額が収入に比べて多いこと、あるいは十分な支出ができないことってした方が無難ではないかなと思ったのですが、いかがですかね。

○吉野英岐部会長　どっちもあるはずだと。

○谷藤邦基委員　単純に多いとは言えないのですが、支出したいのだけれどもできないっていうケースもあるような気もするのですよね。

○吉野英岐部会長　それで、この２点いくつにとどまってしまう。

○谷藤邦基委員　選択肢はあくまでも自分の支出額ということしか書いてないのですけれど、どういう思いでそこに○をしたかっていうのは、それはまさに推測するしかない。

確かに、私は収入に比べて支出多いよねっていうので、実感が低いっていうのはあり得ると思うのですが、一方で支出したいのだけどできないのだよねっていうのはあるような気がするのですよね。

今私が言ったような表現だと非常に冗長で、それがいいかどうかっていう問題もありますけどね。

○吉野英岐部会長　可能性を排除しない方がいいっていう。

○谷藤邦基委員　私はそっちの方がいいのではないかなと思います。

○吉野英岐部会長　ちょっと説明が長くはなるけれど、支出額に関しての要因があるわけで、具体的に突っ込んで考えてみると、出しすぎっていうのもあるし、出せないっていう。

○谷藤邦基委員　両方ありそうな気がするのですよね。

○吉野英岐部会長　他の委員さん、今の御提案について御意見ありますか。ティー先生いい

ですか。

○ティー・キャンベーン委員　はい。

○吉野英岐部会長　可能性としては確かにありそう。和川さんいかがですか。

○和川央委員　なぜ先ほどの質問をしたかというと、一貫して低値な理由として「自分の支出額が多い」としてしまうと、平成 28 年から令和４年まで、自分の支出行動が原因でずっと低値で推移しているという解釈になってしまうなと。確かにその可能性はあるけれど、やっぱり根底にあるのは収入とか資産とかの可能性もあったりとか、谷藤委員がおっしゃったような側面があるのではないかなということで質問に至りました。単年度の理由としてであればいいのですが、継続的な理由としてはちょっとミスリードになるかなと感じているところです。

○吉野英岐部会長　これまではそう書いてきたけれども、よくよく考えてみればと、複数年一貫して低値っていうふうに理由を聞いているわけではないのを、こちらでこういう表現をしてきたわけだけれども、今回低値だという人の意見で、上位はというのが、おそらく調査の結果としては一番正しいというか、それを一貫してまで広げるかどうかですよね。

一貫して低値だって項目では間違いないのだけどっていう。何て言うのですかね。

事務局は何か御意見ありますか。

○池田政策企画課特命課長　はい。一つは支出額を十分に支出できないということについては、おそらくその上の理由とも密接に関連していると思われますので、十分あり得るお話ではないかと考えています。収入が十分ではないので、支出が十分にできません、いうようなお話だと考えています。

次に、先程の谷藤委員の御意見により、ここの表現が冗長になるかならないかということで言えば、適切な表現になるように書くことが重要だと考えてございますので、谷藤先生の御意見を踏まえた形での修正というものを図りたいと考えてございます。

○吉野英岐部会長　最後の文章は一貫して低値で推移した要因と書くと、そこまで調べたのかと言われると、低値である要因であれば間違いない。推移している要因かどうかはちょっと、確かに、わからないと言えばわからない。確かにこうかもしれないけど、そういうふうに聞いてなかったって言われると、そうですね。

これは一貫して低値・高値ってのは、34 ページだけでしたっけ、これ該当するの。

○池田政策企画課特命課長　はい。そうです。

○吉野英岐部会長　今年はね。こっちが。

○池田政策企画課特命課長　年次レポートに単純集計が使われるのは、低値・高値のみですのでそうなります。

○吉野英岐部会長　そうすると、ここを修正しても、他にものすごく影響が出るとまではならない。

○ティー・キャンヘーン委員　36 ページもね

○吉野英岐部会長　これは、高い方ですよね。２ヶ所。高値であるということですね。
34 ページは低値である。

○ティー・キャンヘーン委員　一貫して低値か高値ということで、連続して分析をするという意味では、結構広範囲にわたっているのではないでしょうか。

○吉野英岐部会長　表現として。先生はどっちがいいっていう。

○ティー・キャンヘーン委員　先程の和川委員の最初の質問でピンときているので、それを私の意見として、一貫して低値・高値の原因としてあり得るのでしょうかっていうことは確かにそうではあります。

○吉野英岐部会長　修正をするまでの意見かどうか。
　はい。和川委員。

○和川央委員　先ほどは分析手法の確認で質問させていただきました。これから修正することまでは求めていませんが、次回以降は、毎年の結果を横並びで見ながら、共通の理由を抽出してくのもいいのかなと思っています。今回の記載内容については、特段、修正までは必要ないですし、分析をやり直す必要はないと思っています。

○吉野英岐部会長　つまり、毎年要因はちゃんと眺めてみて、より確度の高い書き方にすることで、来年以降やれるのではないかと。他に御意見ありますか。
　はいじゃ、竹村委員、どうぞ。

○竹村祥子委員　これは、意味からすると、どの年も、低値のままであるという意味ですね。

○吉野英岐部会長　一貫してっていうのは、そういう意味ですね。

○竹村祥子委員　一貫というのと、継続的であるというニュアンスを示しているようにとらえられると思います。どの年も低値であるこの要因は、注目する必要があるというような書き換えをすれば、意味としては、同じになるのではないかと思うのですけれども、いかがでしょう。

○吉野英岐部会長　ティー委員。

○ティー・キャンヘーン委員　竹村委員の意見としましては、多分、並べてみていかなきゃいけないっていう意見でよろしいのですよね。これまで分析した結果を並べて、同じようなものがあればそれを載せるべきだということでよろしいですか。

○竹村祥子委員　表現の問題だけを今指摘したと思っているのですけれど、一貫して低値で推移というのは、継続的に低値になっていくっていう、推移の意味も含まれるように読めると思いました。どの年も低値であって、それが継続しているという意味ですかと、いう問いです。

○ティー・キャンヘーン委員　一貫して低値っていう定義は平均値が３以下っていうふうにしていて、34 ページの表 23 を見れば、確かに、一貫してずっと３以下であるっていうことで確認ができているというところです。要するに、多分、３点未満でずっと推移していますよということで一貫して低値っていうふうに定義していますが。

○竹村祥子委員　わかりました。データそのものは、どういうものかは書かれているので、一貫してというのは上がったり下がったりしないという意味ですね。

それで、一貫してという言葉を使っているのならば、このままでもいいと思います。

これまでも使ってきているということでしたよね。

○吉野英岐部会長　そうです。これまでも使っている表現なのですが、確かに使ってきたので、しょうがないのですけども、書いちゃったので、そこは。ただ確かに今の時点で段々データが増えてきたので、最初１年分とか２年分とかしかなかったのが、今は４年分になって、３年分か。補足調査でその要因が引き出せるようにしてあって、この県民意識調査では数値はこのとおりなのですけど、何が要因となって低い値をつけているのかということについては県民意識調査では聞いてない。ただ補足調査では、ちょっとそこを 600 人に絞ってはいるけれども、何がここの要因になってこういう意識になるのかっていうのは一応聞いてき

ていますので、それを要因というふうに我々は解釈して、そこを見ていくと、このいつも低い収入所得のところではこういった御意見を出していただいている方が多いというか、上位３位というか、三つの要因を比べているので、それをこれまでも記載してきたわけですよね。

ただ、それが一貫して伸びてきちゃったので、確かに一貫してというのが、特にここ７年くらいのデータでずっと３未満なので、それはそれで事実なので間違いないのですけど、それをどういう要因かって考えると、もしかすると令和４年のときの要因を一貫しているのと、それ以外の年では、どちらも一貫しているのですけど、要因が違っている可能性も排除はできないと。

今回は令和４年の答えを載せているという意味なので、より正確に考えて一貫して低値の項目である収入所得に対して、今回の調査の低値である要因を聞いたところ、上位はこの三つであったというふうに切り分けて書けば、拡大解釈には当たらないのではないかというふうに、私も確かにこれを読むと、そう読めるのですけど、ティー先生の言うように結構そうなると修正する箇所が多くなってしまうのではないかってことですよね。

事務局どうでしょう。

○池田政策企画課特命課長　はい。一貫して低値については、先ほど示した表３を使っているのはお話のとおり、今回修正がかかってない部分もあったのですけど、仕事収入の低値の部分と、自然のゆたかさの方の高値の理由の２ヶ所です。今回修正がかかっているのは必要な収入や所得のところの記載ぶりで見ると、補足調査の結果と記載しているのですが、今の吉野先生の話を踏まえ、令和４年調査、この調査で把握した要因によるとという記載をするのであれば今年度のもので誤りではないのかなというふうに考えていますので、今年度についてはそういったような修正の仕方を一つ考えたいと思っています。

次年度以降の分析ということについては、今年第三回くらいの資料につけたような気がするのですけど、過去のもの、令和２年からの要因を並べているような一貫して低値・高値の分析というような手法を検討して参りたいというふうに考えてございました。

○ティー・キャンヘーン委員　結構あるのでは、28 ページ。本当に修正は間に合うのでしょうか。一貫して低値高値で推移している属性とその要因と書いてあるじゃないですか。

これも使っているのではないでしょうか。今何ページでしたっけ。10 ページ。

○池田政策企画課特命課長　一貫して高値・低値の理由は、基本的には属性ごとに出しています。

○ティー・キャンヘーン委員　属性ごとであっても、やはり今年の属性ですよね。ということは今回の議論になるのではないですか。今年しか使っていないので。それが一貫してと言

えるかどうかですよね。

○池田政策企画課特命課長　そうですね

○ティー・キャンペーン委員　結構修正が必要じゃないかなっていう、大丈夫かな。

○池田政策企画課特命課長　すいません。ちょっと趣旨の方確認ですが、一貫して低値・高値の分析手法を見直すというのは、今年やるとするのであればお話とおりです。次年度以降ということになれば、お話のとおりすべての属性で一貫して高値・低値を打ち出しているので、連続する年ごとに出していって、その理由を横に並べたときに、何を選択していくのかという、その選択基準をどうしていくかということも今はまだ決まってないので、一概にお話はできないのですが、やっていく必要があると思います。

それで私の議論はちょっと矮小化していた部分があり、今年のところで、今回のところの変更点があったところでどうしていくのかという趣旨だというふうに考えていたので、それ、全体としてお話をするのであれば、そういうことに関して、一貫して整理をしていくということになろうかと思います。

○吉野英岐部会長　はい。竹村先生。

○竹村祥子委員　一貫してっていうところについては、例えば７年間一貫して低値で推移しているというふうに書けば、まず問題ないのではないかと思うのですけれども、次に、修正もそんなに各所に影響を与えないのではないかなと思います。

いかがでしょうか。

○吉野英岐部会長　事務局、わかりましたか。

○池田政策企画課特命課長　レポートについては、平成 28 年から令和４年までの意識調査で一貫して、低値・高値という形で表現をさせていただいているものと認識しています。それを見出しというか見方として見せるということでそれらのものを追加した方がいいということであれば、表現を検討させていただきたいと思います。

○ティー・キャンペーン委員　もうすでに書いてある。

○吉野英岐部会長　書いてある。基本的には書いてあるというふうに述べられているってことですかね。７年間っていうのは、はい。

○池田政策企画課特命課長　あとはその見出しとしての見せ方ということになってくるのかなというふうに。

○吉野英岐部会長　さっき事務局がおっしゃったのは一貫して低値・高値っていうのは属性別に分析をかける前であっても、収入所得っていうのはそうなのですよね。属性別に分けなくても、常に、３未満で推移していて、収入所得については、どの属性で見てもすべて３未満でずっと動いて変わらないと。

○池田政策企画課特命課長　すいません。収入所得はすべてではなくて、役員さんとかそういったところについては３を超えているのですけれども、それ以外のほとんどの属性が３未満ということで、ここは属性別にしないで全体としての実感平均値の変動要因という形で整理して、自然の豊かさは、ここは全部の属性が４を超えているということで、全体としての理由を採用しているという整理になっています。

○吉野英岐部会長　はい。竹澤総括課長。

○竹澤政策企画課総括課長　整理の仕方なのですけれども、ちょっと 34 ページをご覧いただきたいのですが、34 ページの③の３行目のところで、補足調査においてってあるのですけれども、この補足調査の前に、「令和４年の」って入れて、さらに、ここの③の一番最後の行なのですけれども、「一貫して低値で推移している要因として推測されます。」のところの「一貫して」を取ってしまってはどうでしょうか。

そうすると、28 ページ、34 ページ、36 ページも今回そのような修正をさせていただいて、そうすることで、誤解が生じる可能性が減ると思いますし、来年以降のですね、検討方法についてはまた別途、検討させていただくということではいかがでしょうか。

○吉野英岐部会長　はい。今年度のデータをもって、一貫してというふうに受け取られないようにというか、そこを少し、区切れるように今年度のデータでまずは分析したっていうことと、一貫しているかどうかはともかくとして、してなくてもしていても、一貫してっていうことは強いので、そこをちょっと外すことで、低値で推移しているというような表現にして、今年度のデータをその要因として使うということですね。委員の皆さん、いかがでしょう。

ティー先生。

○ティー・キャンヘーン委員　はい。私も、今からやり直せというのは無理があると思っているので、私は最初からもうこの修正であれば十分じゃないかな。何か議論が、全部並べていきそうな気がするので。できれば、もうここまで来たら、もう一回私達でチェックして、

分析し直すのはちょっと。今ので多分誤解が少なくなるので、私はそれでいいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。和川委員どうぞ。

○和川央委員　私も発言がいろいろと波紋を呼んでしまって、申し訳ないと思います。私も特段今年の分析をやり直すという意味ではなかったので、今の修正で十分な対応だと思います。

○吉野英岐部会長　今、竹澤総括課長から御提案ありましたが、今年のデータを使っているということと、一貫してということはそうなのかもしれないけれども、そこまで強く言わなくても大丈夫だという、大丈夫ってかね、大きくそこ結びつけられてしまうとちょっとつらいので、低値で推移しているという表現にちょっと修正をした上で、こういった要因が考えられるというように受け取っていただけるように、書きぶりを若干修正するということで進めていきたいということですけど、事務局サイドでできそうですか。

○池田政策企画課特命課長　はい。それでは今のような表現の方に修正をさせていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。

それから、谷藤委員からもお話あったとおり、自分の支出が多いっていうのは確かに多いのかもしれないし、十分じゃないので、十分支出できないっていうことでちょっと低くなっちゃうことも考えられるので、そこは少し両方の要因がとれるように書いておけばいいのではないかなということで、そこもちょっと若干修正をお願いしたいと思います。修正については、すいません。時間があまり取れないので、委員の方々にはメール等々で修正箇所のみをお示しすることになると思いますので、それぞれ御確認いただきまして、事務局の方に最終的に同意か不同意かを教えていただければと思います。

ちょっと時間とってすいませんでした。

あと、生活時間については、掲載したいっていうことで、問題がなければ掲載して、これなんか区分けしたのでしたっけ。一次二次三次活動時間っていうのは、もともとこうやっていたのでしたっけ。

資料編の 36 ページの議論をしていまして、一番下に行動する別の時間が載せてあります。これは 10 いくつ項目があるのですけど、上の帯棒グラフっていうのはこれを三つに大きく区分していて、一次活動・二次活動・三次活動で、多分足し上げていくとこうなるということですよね。

○池田政策企画課特命課長　この整理は、もともと補足調査の方でやっておりまして、その

余暇の実感が下がっている要因は何だろうかということで、県民意識調査の方でも同様の分析をしてみようということで、今回、その中でも実感が下がっていた女性とか、あとは70歳以上の方のところで、どういったところの時間の使い方に変化があるのかというようなことを分析した際の資料となってございます。

○吉野英岐部会長　すでに持っているデータを、こういった形で整理し直して提示したということでよろしいですね。

○池田政策企画課特命課長　はい。そういうことです。

○吉野英岐部会長　そういうことによって、余暇の実感が低下しているのかについて、より突っ込んだ分析ができるのではないかというのが、私たち幸福部会に与えられている一つミッションですので、それに応える形で全体の調査の方をこういった見せ方にしたというのを追加したいと。

○池田政策企画課特命課長　はい。

○吉野英岐部会長　いかがでしょうか。山田委員どうぞ。

○山田佳奈委員　はい。ありがとうございます。こちらを掲載することについて、私は異議ございません。といいますか、いいのではないかなと思いますが、一つだけ。上の三次活動時間が余暇時間にあたるということでよろしかったですかね。

　こちらのグラフの方には、参考としていただいているところで、分かるのでそのままでもいいかなという気はするのですけれども、三次活動時間として聞いているわけではなく、確か差し引くと、この三次活動時間が得られるということですね。ですので、三次活動時間の上の帯のところに（参考）というふうにしてはいかがでしょうか。四つぐらい入れればそれで終わりかなという感じがしますけども。

○吉野英岐部会長　事務局、いかがでしょうか。

○池田政策企画課特命課長　はい。三次活動時間の後ろのところに参考値という趣旨ですか。そうすると上のところに時間を記載していますけども、一日当たりのうんぬんかんぬんと書いてあるところに、三次活動時間（参考）というような、こちらも合わせて整理をさせていただくっていう理解で進めたいと思います。

○吉野英岐部会長　一次活動ってのはこういうものですよっていうところが、ちょっと字

が小さいけど書いてありますよね。36 ページの、四角の下に、睡眠、食事など生理的に必要な活動を指すのが一次活動ですと、二次活動というのが仕事で家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動であるという意味ですよね。これが多分県民意識調査にこのように、表現されているということでよろしいですね。

ありがとうございます。はい。和川委員。

○和川央委員　県として参考値として大丈夫でしょうか、確認させてください。余暇時間自体が県の幸福関連指標になっていまして、それが参考値扱いとして外に出るのはいかがかなと思いまして。

○竹澤政策企画課総括課長　はい。今までこの三次活動時間につきましては、24 時間から一次、二次の残差でとるというそういう定義で、これまでやってまいりました。

その定義はですね、この定義に基づく数字につきましては、県民計画のいわて幸福関連指標でも使っておりますので、県といたしましては、この三次活動時間（参考）とするのは、計画の立て付け上ちょっと難しいかなというふうには考えてございます。

○山田佳奈委員　あ、なるほど。わかりました。この下の行動種類別の方に余暇時間（参考）と書いてあったのでいいのかなと思いました。重要であるということは今理解しました。そういうことだったのですね。

厳密にいえば、三次活動時間というのは残差であるけれども、指標として重要なのですね。ということがわかれば、それでいいかなという気がしております。

○吉野英岐部会長　この下の棒グラフ、10 幾つ項目ありますけれども、これが１と２と３に分けられるってことですよね。どれかに該当すると。調査統計課わかりますか。
確認のためにということで。

○千葉調査統計課主任主査　この行動種類別というところを、そうですね。一次活動時間と、二次活動時間としてお聞きしていて、余暇時間としてはお聞きしていないので、こちらの方は余暇時間（参考）という形になっています。睡眠とか身の回りの用事とかは調査でお聞きしているので、一次活動時間と二次活動時間というのを 24 時間から差し引いた三次活動時間になっています。その下の余暇時間は、行動種類別としてお聞きしている時間ではないので、ここで参考という形になっているようなところ。

○吉野英岐部会長　ちょっと確認して、ここの余暇時間が三次活動時間に該当すると私は理解したのですね。

それで、例えば H31 であれば、上の帯グラフは、371 分が三次活動時間ですよね。下の棒

グラフでも、H31 は一番下のグラフなので 371 だと、その上も 372 で同じとその上も 370 で同じと。ただ、令和４年だけがずれちゃう。他のところは、棒グラフと三次活動時間の時間が一致しているみたいなので、よくよく見ると、どうして令和４年だけ 372 と 376 でずれが出るのかと、ちょっと今、気がついちゃったのですけど、すいません。何か理由があるのでしょうか。

○谷藤邦基委員　37 ページの令和２年も違っています。

○吉野英岐部会長　違っている。微妙に違っている。大体同じじゃないですか。

○谷藤邦基委員　次のページは合っています。38、39 ページは合っています。

○吉野英岐部会長　合っているっていうか、同じだと思って見ていたのですけど

○谷藤邦基委員　２ヶ所違う。36 ページの令和４年と、37 ページの令和２年が違っている。

○吉野英岐部会長　何か理由がある。足し上げている数が外れたり入ったりするっていうことですかね。

○千葉調査統計課主任主査　合うはずの数です。

○吉野英岐部会長　あるいは最後の数字の丸めで。

○千葉調査統計課主任主査　ちょっと確認をさせていただいて

○吉野英岐部会長　はい。１日 24 時間だから、1,440 分ってことですよね。1,442 分に延びたのか、そんなことはありえないわけで、1,440 が最大値ですよね。なので、ぜひ行けば、この数字になるはずです。だから、どっか増えちゃったとかどっか行っちゃったのか。わからないですね。

　でもそうすれば参考値ではあるけれども、要するに三次活動時間ではあるってことですよね。

○千葉調査統計課主任主査　そうですね。余暇時間は、一次活動時間・二次活動時間以外の三次活動時間として出している所で

○吉野英岐部会長　余暇時間というふうに表現しちゃったので、（参考）というふうに、若

干の遠慮を含めて書いてある。余暇時間としてはとっていないのだけれども、三次活動時間をまず余暇時間とみなせるのではないかということで、こういうような表現をとったということで、山田先生は下に参考で書いてあるのだから、なんで上に書いてないのかっていう御質問の趣旨かなと思って聞いていたのですけど。

はい。竹澤政策企画課総括課長。

○竹澤政策企画課総括課長　はい。すいません。36 ページと 37 ページの数値が一致しないことについては確認をして、御連絡を差し上げたいと思います。下の余暇時間のところで（参考）としておりますのは、上の一次活動・二次活動の内訳を示しているということで、それに対して、余暇を参考として記載しているということでございますので、三次活動時間そのものがですね、余暇（参考）としているものではないというふうに御理解をいただければと思います。

このグラフの中で、一次活動・二次活動の内訳を示した上で、参考として余暇時間を示しているというふうに御理解いただければと思います。

○吉野英岐部会長　数字的には一致しているもので。

○竹澤政策企画課総括課長　はい。一致するはずです。一次活動・二次活動の項目を分ごとに出した関係で、四捨五入で丸めたものが出たのか、もしくは単なる表記ミスなのかについては確認して、後で御報告したいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。なので、どこかに、数字の集計上、合計して 1,440 分にならない場合も生じるとか書いてあると、すごく細かい方が読んで、なんでずれているのだというようなことを言われたときに、答えられるようにしておけば、足し算間違っているのではないかとか言われないように、数値の表記上このような形になっているっていう。よく統計ではあるので、全部足してもゼロにならないと。それは問題ないので、それが書いてあれば。ティー先生いいですか。

○ティー・キャンヘーン委員　すいません。４ずれているので、多分違うと思う。

○吉野英岐部会長　ちょうどいいところで気が付いたので最終的に出す前ですので、すいません。ちょっと御負担をかけますけど、せっかくですから、正しい数字を記載する方がいいと思いますので、時間ない中ですが、ちょっと確認していただきたいということです。で、今、竹澤総括課長からお話があったとおり三次活動時間ではあると。残差だからと。それを、一応ここでは余暇時間と読み替えるので、参考というような表現をつけていらっしゃると。ここだけ三次活動時間と書くと変は変ですよね。上がそう書いていないのだから。それを表

現上、余暇時間としていて、今度、余暇時間の中が分かれているのかっていうと、分かれていないのですよね。残差だから。ただそこがやっぱりきちんと本当は、先ほど最初に事務局の発想はそこをちゃんと見ないと、余暇時間についてどういった中身があって、それが増減したり、実感できる・できないっていうことになるとなれば、何かが影響与えているわけだから、どういった活動について、多い・少ないとか、十分・不十分っていうことになっているかをもって分析するという方向では載せているということですよね。

山田委員。

○山田佳奈委員　すいません。御議論ありがとうございました。

わかりました。行動種類別のグラフの方は、データとしての扱いとして、（参考）と。だから、余暇時間の名前が三次活動時間と違うのは、統計としてはとっていないけどということでの参考ですね、

○吉野英岐部会長　説明しといた方がいいかもしれないですね。余暇が何で参考なんだって言われると。ここはそういう表記として書いてあるという。ちょっとくどくなるかもしれないけれども、要するに、上の二つ、一次活動時間・二次活動時間をこのように区分して聞いているので、確かにそのとおり書けるけど、三次活動時間については区分して聞いているものではなく、全体の時間から一次活動時間と二次活動時間を引いた残差の数字であるけれども、余暇時間として提供する以上、参考値として掲げる、ちょっとくどいですけど、誤解がないようにする。山田先生いいですか。

○山田佳奈委員　仕組みはわかりました。部会長にお話しいただきましたように説明が一言下の方に入れば、非常に解釈しやすいかなと思います。

○吉野英岐部会長　ちょっと修正してください。

すいません。若菜委員や竹村委員にちゃんと説明しないまま議論を進めてしまったので、何を細かく議論しているのだと思っていらっしゃるかもしれませんが、表記の問題と数字の面がちょっと両方出てきてしまったので、ちょっとこの点について最終的なバージョンを作る前に、一旦御確認をいただくと。あるいは、表記について、誤解というか間違った解釈をすることがないように、紐づけをする形で、これはこういう意味で使っているということからこれを示している点を書いておいて、初めて載せるなのかな。資料編に初めて載せるので、最初の一歩なので、そこだけきちんとやっていっていただければということで、大体よろしそうなところまできましたので、あとは事務局の方でよろしくお願いします。

事務局が言っていたのが三つでしたっけね、大きくは。

○池田政策企画課特命課長　はい。あと皆さんに御確認いただいている参考４としての。

○吉野英岐部会長　これ、もう１回確認したらいいですよね。

○池田政策企画課特命課長　そうですね。はい。

○吉野英岐部会長　参考４っていうのは、各人のコメントが載っているところ。

このレポート、資料２－１ですよね。資料２－１で結構なページ数を割いていただいて、後ろの方に、各人の発言の対応なのか、整理したのか、79 ページ以降に載っておりまして、委員としての責任がある以上、お名前も載せてあると。無記名ではないということですので、これは確かにしゃべり言葉を基本的にはまとめていただいているので、臨場感があっていい部分と、しゃべる言葉だとどうしても書き言葉とはちょっと違いますので、省略したり、なんか出てきてしまっている部分もあって、それは最後。さっき言ったように解釈のずれや誤解がないように、補足するには構わないと思っていますので、もう１回自分の御自身の御発言のところを見返していただいて、大きな問題ないのだったら、言ったことがちゃんと書いてあるかっていうことを、見ていただく作業してもらえばいいですかね。

○池田政策企画課特命課長　はい。照会にあわせて御確認をお願いしたいと思います

○吉野英岐部会長　ということで、いっぱい発言するといっぱい出てきちゃうので、その分ね、貢献しているとこですからね。和川さんどうぞ。

○和川央委員　幾つか質問させてください。

委員発言をレポートに掲載する趣旨についてですが、実感の低下とか上昇の要因が、データから読み解けないのだけれども、委員の知見から発言されたものを、何かしら文章に落とし込んで掲載しようという、あくまでも、この変動要因について参考となる議論をレポートに追加するということだったと思います。一方で、この参考４の冒頭を読むと、「特に重要と考えられる意見」という表現になっていて、実際に変動要因の議論と関係ないことも結構入っているのですね。したがって、今回照会された趣旨が、事務局としてレポートに掲載したいと判断したものがこれのですよ、だから話した本人が、表現を精査してくださいという趣旨なのか。そもそも、レポートの趣旨に鑑み、自分の発言を掲載するべきかどうかまで含めて確認してくださいという趣旨なのか、これがまず確認したい一つです。

二つ目は表現の中で、「何々委員の発言によると」とか議事録で他者の発言を引用している箇所があるのですけど、会議録であれば話が繋がるのでしょうけれども、一部を切り取った掲載だけでは繋がらない表現も幾つかあるかなと思うのですが、そういったところも残してもよろしいでしょうか、という２点を確認させてください。

○吉野英岐部会長　はい。事務局としていかがでしょうか。

○池田政策企画課特命課長　最初の方についてなんですけれども、基本的には低下の分析で出てきた理由もそうなのですけれども、提言のようなお話を幾つかちょうだいしていますので、そういったような場合についても、今回こちらの方としては整理をさせていただきたいなというふうに考えているものです。

で、お話のとおり若干幅広に入れているので、そこのところについて、記載にここまではというような御議論もあるかなというふうな思いも抱きながらの、御照会をさせていただいていたという形になります。

で、先ほどの委員がっていうところについては、すいませんそこは残さないで、次の指示をここに入れていくという形での整理をしたいと思います。

資料の引用などのところはいくつか直していたのですけれども、修正漏れの部分だと思いますので、再度精査をさせていただきたいと思います。

○和川央委員　わかりました。繰り返しとなりますが、実際発言した本人がこれは掲載の必要がないと思ったものは、削るという意見もありということでよいと。わかりました。

○吉野英岐部会長　これは議事録から拾っているわけですよね。

○池田政策企画課特命課長　はい。基本的に議事録そのものは公開されている。

○吉野英岐部会長　実はもう公開済みのデータであるっていうわけで未発表ではないと。だから、それを議事録は議事録として残すのはそのとおりですね。このレポートの中で取り入れて残す場合、特に重要っていうふうに書くかあるいは提案、提言に関する部分っていうふうに、例えば重要かどうかを、それは本人が判断するかどうかわかんないので、提案や提言に関する部分っていうふうに書くこともやりようとしてはあるかなということと、あともう一つ発言者御本人が特段ここで載せるほどのものでもないということであれば、それは御本人の責任で、ここには載せないということでもいいかと思いますが、いかがでしょうかね。

○池田政策企画課特命課長　提言などについては、今までの第５回までのところに前回発言録として、エクセルで整理されたものを添付させていただいていたと思うのですけど、そこの中で種類分けをさせていただいており、その中での整理ということになってございます。

で、今部会長からのお話の対応ということで。

○吉野英岐部会長　何か若菜委員お話ありますか。

○若菜千穂委員　公開されているものならと思うのですけど、ただ、これバーっとつけられて、なんかわかりやすいのかなというと、そうでもない気がして、ちょっと別の指摘になっちゃうと思うのですけど。

　これ付けるなら、レポートのこのページについての語ったというのがわかる方が、読む人としては面白いかなと思いました。ごめんなさい、ちょっと違うあれかもしれませんけど。

○吉野英岐部会長　この、前半部分と、委員の意見との関連を分かるようにするって意味ですか。

○若菜千穂委員　関連できるものとできないものがあると思うのですけど、これ、ダーッとこれ言われても、私たちはこの部分について議論しているから、すぐに分かるのですけれど、多分知らない人はこれ、何の議論しているのだろうみたいなところがあると思うので、ページが特定できるものは、委員の下のところにページ番号を振ると、何かレポートを読み下す面白味がでてくるのかなと、ちょっとそんな気がしましたというとこです。

○吉野英岐部会長　はい。それですね、記載方法の工夫ですね。でも、事務局の大変そうな気もします。

○若菜千穂委員　そうですね。すみません。まあ、でも、ボリュームとしてはちょっと多過ぎるかなと。

○吉野英岐部会長　そうですね。ちょっとボリュームが多いっていうのは確かに。全体のこんなにボリュームだとそちらだけ読まれちゃうと、またあれなので。全体で今、大体 109 ページぐらいですよね。それで、今原案では 79 から入るので、40 ページ弱、37 ページ分ぐらいあるのですよね、引き算すると。本編は 78 ページですので、３分の１ぐらい。

　今、この案で載せていただきましたが、まあ確かにあんまりこんなにたくさん載せなくてもいいような気は若干します。

若菜委員どうぞ。

○若菜千穂委員　これちょっと私のとこ、少ないのでこういうこと言うのは申し訳ないのですけど、削除するのは、やっぱりせっかくなので各委員さんでここ残すとか、ここはもういいですとかっていうのは選ばせてもらいつつ、この今のレポートのこのページについてですとかっていうのは一緒にこう、加除を委員さんがやる中で、このページについて指摘できるものはちょっと記載してくださいというのを直に任せてはいかがでしょうか。

○吉野英岐部会長　そうですね。事務局はいかがでしょうか。

○池田政策企画課特命課長　はい、わかりました。そのようにさせていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　これ以上増えることは絶対ないので、ここで精査をして、委員としてやはり載せておくべきあるいは場所がわかるようにしておくべきということを各委員の中で納得してくだされば、事務局としては負担がそんなに大きくない。はい。でよろしいですか。たくさん発言している先生にもいや俺全部載せたいっていう人もいらっしゃるかもしれませんが。

レポートのボリューム感の中で、我々は基本的に確かに出たに基づいて議論を深めてきたわけだから、基本はデータに語らせるというのが一番私はよろしいことで、我々その中でこう解釈してきたと。こういった考え方を提示してみたということであることは間違いないけど、あまり私たちの意見解釈だけが、全体を決めてしまうというわけではないと思いますので、我々もまだデータが少ない中で、試行錯誤をしているところがあるので、必ずしも100％確定的なこと言っているわけではないと思うと、ある程度の分量で、読んでいる人が読みやすくというか、解釈がわかるようになればいいという意味で載せるということになると思いますので、本来であれば議事録を全部見ていただければ、それはそれでまったく問題ないと思っていますが、レポートとして載せる形として、適切な内容にしていくというふうに考えています。

谷藤委員、どうぞ。

○谷藤邦基委員　いろいろお話がありましたけど、私分析の種類っていうのはまず書いてあるので、どこの部分の発言かは大枠はわかるだろうと思っているのです、実は。逆に、私の観点で言うと、いつの時点の発言かは分かった方がいいかと思うのです。

例えば、私も同じ問題について最初の問題提起をして、追加の分析をしてもらって、それにコメントするというのが、間をおいて出てきたりしているので、何も予備知識なしにこれを見ていると、どういう意味なのだろうっていうのはあるかなと。だから、何についての発言かはわかるのだけどいつの発言かが分からない。時系列でどっちが先かは分かるが、それをいつ言ったのかが分からない。第２回だったか、第３回だったかまでは私も定かな記憶はない。だから、それを調べようとすれば、私自身が議事録を確認するしかないということもあるので、何日とまではいいませんけど、第何回ぐらいは分かった方がいいのかなとは思いました。

○吉野英岐部会長　事務局いかがですか。すぐできそう。

○池田政策企画課特命課長　すぐできると思います。

○吉野英岐部会長　はい。そうすれば、もし厳密な検証をされる方がいらっしゃった場合、議事録の方に戻って、これかっていうふうになさった場合でも、それはそれで事実なのですよね。第何回っていう部分を入れていただくのと、それからどこの部分でというのは確かにその分野別には出ているので、分野の特定はすぐにできるので、たださらに何についてっていうところまで、もし、委員の方で書き込んでいただけることがあれば書き込んでいただいてもいいし、そこまで必要ないっていうことであれば、特に書き込まなくてもいいということで、そこはちょっと事務局さんの負担を減らしながら、せっかく今回初めてこれ付けるわけですので、これ県民に対して適切な、あるいはこうした部会を開いているということで読んでいただいて、参考にしていただくという趣旨でつけていただくことになると思います。Tee 先生いいですか。

○ティー・キャンベーン委員　はい。

○吉野英岐部会長　ちょっとすいません。竹村先生どうぞ。

○竹村祥子委員　すみません。11 時から。

○吉野英岐部会長　すみません。竹村先生は 11 時から授業があるということで聞いておりましたので、ありがとうございました。

○竹村祥子委員　申し訳ございません。それでは退出します。失礼します。

○吉野英岐部会長　失礼いたします。ありがとうございました。それでは、発言のところの修正を短い時間になりますがやっていただきたいと思います。

続いてはもう一つ残っているのですけれど、令和５年の県民意識調査の補足調査部分についての御提案ということで、これも事務局から説明をお願いします。

○池田政策企画課特命課長　それでは資料３をご覧ください。こちらの方で補足調査の見直しという形で整理をさせていただきたいと考えております。

基本的な考え方といたしましては、調査の連続性ということも考慮いたしまして、今年実施した設問を基本としたいとは考えていますけれども、実感変動をより適切に把握するために必要に応じて修正をしていきたいというふうに考えてございます。

あと、変動要因として「回答理由と関連性の深い要因」の選択肢についても、アクションプランの切り替え時期ということで、各部局の方に今回照会をさせていただいて、修正を検

討しているということでございます。

三つ目といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響については継続という形で考えているというものでございます。

変更案といたしましては一つ目、こちらの方は前回の部会でもちょっとお話をしていただいたところなのですけれども、ワークショップのところがなかなかタイムリーに意見を反映できないのではないかいうようなお話もございましたので、今回試みとして、要因に合わせた具体的な内容があれば記載していただくというような自由記載欄を追加したいというふうに考えてございます。

二つ目、次のページですけれども、先ほどちょっとお話がございましたけれども、余暇時間としての生活時間の方は把握しているのですけども、ちょっと余暇時間の内訳の方に関連するような設問を今回、追加をしていきたいということで、整理をさせていただいています。

学業以外の学習、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動というようなところの時間の変動というものをお聞きしていきたいというふうに考えております。

三つ目といたしましては、先ほどちょっとお話をしましたけど、アクションプランの切り換えのタイミングということでございますので、補足調査の属性に大分偏りが出てきている、特に年齢のところでですね。出てきているということでございますので、そこの見直しをこのタイミングで図りたいと考えておりますことから、現在御協力いただいている方々の継続意思というのを確認させていただく設問を追加したいというふうに考えています。

四つ目といたしましては、以上設問の増加等を見込まれるので、重要度、満足度のところの項目については削除をさせていただきたいというふうに考えてございます。

で、すいません、ちょっと飛んで、４ページをご覧いただきたいのですが、先ほど、補足調査の方で継続の依頼をさせていただくに合わせまして、県民意識調査の方におきましても、補足調査に御協力していただけるような方の募集に係る御意向を確認させていただく設問を追加したいと思っております。

左側「旧」と書いているのが、現在の調査が始まる前に県民意識調査の方でやったもの、今回、右側の方で補足調査の依頼をしようとするものです。前回は５年間と書いているのですが、基本的には今年やる県民意識調査に御協力していただいた方の中から抽出していくということで、アクションプランの期間で考えると４年間でいいのかなというふうに考えておりましたので、そこの点について変更をさせていただいているというところでございます。それ以外のところは以前と同じような内容で、調査をかけさせていただきたいというふうに考えているものでございます。一つ戻っていただいて３ページでございます。

こちらの方が「回答理由と関連性の深い要因」の選択肢の追加ということで考えています。今回の変更といたしましては、「地域社会とのつながり」というところに、選択肢を増やしたいというものでございます。こちらは「地域社会のつながり」の内容として、今年の御議論の中にもいろいろいただいたところですけども、地縁活動のみではなくて、それ以外の要

因というものも、この「回答理由と関連性の深い要因」の中に入れていってはどうだろうかということで、今回「趣味・スポーツなどを通じた交流」というものを入れさせていただいております。

また、どちらかというと自分の方から交流していくという選択肢で整理していますけれども、民生委員や見守り活動のような方々に来訪していただく形でもつながりを感じられる方もいらっしゃるのではないかと考えて選択肢を追加、もう一つが、なかなか対面の交流が難しいけれども、地域の情報が自分のところに入ってくる。そのような環境にあるということで「つながり」を感じるケースもあろうかと思いますので、そういった選択肢を追加するという形で今回御提案をさせていただきたいというふうに考えてございます。

事務局からは以上です。

○吉野英岐部会長　はい、ありがとうございました。この変更は、2024 に実施するところか、2023 に実施するところか。次の１月ですね。直近の１月に若干変更したいってことですね。これまでも委員の皆さんにもいろいろと情報提供あったと思いますが、まず、この資料どおりにいきますと、まず、自由回答欄を追加して、書き込んでいただく欄を作るというのが、１ページですよね。

２ページについては余暇時間についての内訳がわかるような設問を設問６として新設するわけですね。さらに、来年度以降、補足調査に協力いただける方について設問を新設すると。これはもう、本人の意向ですので分析するものではない。重要度・満足度については、こちらの幸福感の補足調査では、次回以降から削除して、御回答いただく方の御負担を減らしていくと。それから３ページは選択肢を増やすっていうことですね。「地域社会とのつながり」について、その中で拾ってはおりますけれども、多そうな項目について選択肢を増やしたいということです。最後の４ページは、これは 2024 まで当初の計画ではお願いするということだったけれども、今の対象者の方にお送りするのは、次までってことですね、2023 までは、今現時点で名簿に載っている 600 人。

○池田政策企画課特命課長　そうですね。

○吉野英岐部会長　2024 からは、メンバーを入替えした上でやるから、調査期間は 2024 から 2027 になっているというような、いくつかの変更点について御提案がありました。
御意見や御感想、御質問があれば、はい、どうぞ委員です。

○和川央委員　それでは資料３を順番に何点か御指摘をしたいと思います。
変更案（1）の①についてですね。中身については、そのとおりと思うのですけど、後で精査して確認していただければと思っているのですが「そのような回答した理由としてマルをつけてください。なお、」とあるのですが、「また」じゃないかなと思います。ここは事務

局の方で精査してもらえばいいかなと思います。

二つ目、余暇時間の内訳の部分になります。ここは変化を聞くところになりまして、議事録に残しておきたいと考えてあえて発言するのですが、基本的に補足調査について変化を聞く設問は全くなくて、今時点でどうですかという現在の状況をひたすら聞くという調査設計になっていて、それをできるだけ崩さないように設計をしてきたところです。したがって、本来であればここも「何分ですか」と聞いて、来年になってその差分をとりながら変化を確認するというのが、補足調査の本来の設計の趣旨になるかなと思うのですが、そうすると、２か年経たないとデータが変化したかの結果が出てこないという、課題がある関係で、即時性を考えてここだけ変化の設問を許容しました。今回の例をもとに、また変化の設問をどんどん追加することがないように、その都度精査をしながら加除を行っていくべきということをコメントとして残しておきたいと思います。

意向確認についてですけれども、今回もう調査を実施しているので、この設問５行がすごくくどいと思うので、シンプルに調査をやってもらえますか、ということだけでいいのかなと思います。

あと今後何年ぐらいの協力を想定しているのかについては、現時点で決定しておく必要はなくて、受ける人がどれぐらいの規模感なのかがわかるようにイメージとして、４年なのか５年なのか、記載した方がよいと思います。前回も５年って書いたのは、４年と書くのはリアルだったので、大体５年程度ということで前回掲載しました。今回も何らかの規模感を示した方が、協力を受けやすいかなと思います。繰り返します。③については注も含めて、もうちょっとシンプルにしてもいいのかなというふうに思っております。

次３ページ目の（２）番の「地域社会とのつながり」についてです。

６として「趣味・スポーツなどを通じた交流」ということで、他のものはこの地域に着目した選択肢が出ている中で、ここだけ地域に着目してないということなのですけれども、ここは地域社会という概念を変えるという趣旨でこのような設問が追加されてきているのか。先ほど御説明があったのですが、５番との違いですね。隣近所との面識・交流との違いですね。ここで把握しようとしている趣旨というか、対象は何なのだろうかを改めて確認させてもらえればと思います。

○吉野英岐部会長　はい。じゃあ、事務局からどうぞ。

○池田政策企画課特命課長　はい。一番の方は、再度検討させていただきたいと思います。二つ目については、今御指摘のとおり我々としても追加をするかどうか悩んだところではあったのですが、政策的な効果というのを把握したいという趣旨がありまして、今の質問にあまり影響を与えないようなやり方とすると、今の形でいかがでしょうかということで、御指摘の、今後このような変化というものがまた入ってくるような要望があれば、その都度、御相談をさせていただきたいというふうに考えています。

次に意向確認の設問については、丁寧に書いた方がいいのかなと思って、大分くどくなってしまっていたのはそのとおりなので、少し文章の方は簡略化しつつ、その期間の方は追加をしたいと思います。それから、「地域社会とのつながり」のところは、すいません。ちょっと言葉足らずだなあと思って私も見ていたところで、少しここに例示を入れたりながら、何を想定していたかというと、地元のスポーツ少年団とか公民館の講座のようなものが拾えればいいのかなというふうに考えていたものでした。そういった意味では、「隣近所の面識・交流」というと、本当に隣の人と顔を合わせていくというようなイメージなので、そういうものではなくて、地元の集まりっていうかスポーツの団体とかそういったようなところでの交流というものが「地域社会のつながり」というものに含まれるのではないかという形で、今回整理をしたいということですので、少し例示等も含めて検討させていただきたいなというふうに考えてはいるとこです。

○和川央委員　ＯＫです。

○吉野英岐部会長　いいですか。まずその他の御質問があれば。じゃあ、谷藤委員。

○谷藤邦基委員　質問じゃないですが、今「地域社会とのつながり」のところで和川委員が言ったところが、私もちょっと、若干懸念を感じていたところで、調査票の方を改めて見ると順番に、「地域社会とのつながり」を感じますかっていうような回答をして、そういう回答した理由として次から選んでください。なので、これに順次従っていけば地域性というのは大前提としてあるのだっていうのは分かるのですけど、回答選択肢だけ見ていると、地域に関わりない交流というのも想定し得るわけで、そこが逆に言うとちょっと心配なところではありました。例えば「地域社会とのつながり」で感じないと答えた人が、私は全国に仲間がいるから、地域との繋がり感じなくても別にいいかなみたいなことで「趣味・スポーツなどを通じた交流」を選んで回答をするっていうパターンっていうのもなくはないかなあって、ちょっと先走りした心配ですけど、一つ思ったところです。

今事務局から、例えばスポーツ少年団という例示がありましたけども、ここはあくまでも地域に関わった話なのだっていうのが、わかるような選択肢になっていればいいのかなと思った次第です。ちなみにつけるのは６番ですけど、３番にもスポーツ大会の例示があるので、ここの違いとかですね、恐らくは日常的なっていうニュアンスが多分入っているのだろうなと思いましたけど。そういったあたりが、できるだけ誤解がないような形で考えていただければいいかなと思った次第です。以上です。

○吉野英岐部会長　はい。事務局。

○池田政策企画課特命課長　３番のスポーツの大会というのは、多分地域スポーツ大会み

たいな形だとは思っていたので、６番のところについてはお話のとおり、「地域における」とか「地域の」みたいな形の枕詞を少し入れつつ、例示としてスポーツ少年団みたいなものを入れていけるような形で表現の修正をさせていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございました。

御意見二つ聞く限りは、やっぱり、これは地域社会がまず最初にあるので、地域社会っていうものと違うような趣旨の、いろんな活動についてはあげちゃうと、マルついちゃうので、それをもって「地域社会とのつながり」っていうふうに読み込むのが、本当に適切かどうかっていうことなので、あくまで「地域社会とのつながり」を、感じるような活動や団体とか、要因として挙げられるものを精査して載せたらどうか、あるいは載せる場合も、「地域社会とのつながり」がわかるような、例示の仕方がよろしいのではないかということですかね。いわゆる mixi、mixi はもうないけど、テーマ型コミュニティっていうか、地盤と全く関係なくどこでも繋がるのは今の時代が多いので、特定の地域に関係しなくても十分楽しめる時代になりましたのでね。そういうものとはちょっと違うもので、地域に根差した活動をというふうに、読んでいる人がわかるような形でという御趣旨だと思って聞いていましたので、改善できるところは、改善していただければと思います。

そのほかは、御意見、御質問等ありますか。

「なお」と「また」って私よく分からないけれども、「また」でもいいかもしれない、最初のところはね。自由回答欄を作る時に、要因について具体的な内容があればっていう、そう。「なお」ではかたい気もしないけれども。これ県の方で、新しいところでもあるので、どちらか適切な言葉遣いを入れてください。

そのほか、よろしいでしょうか。あと、来年やってもらえますかっていうところを、ここまで書かなくてもいいのかなっていうかですかね。選択肢が三つしかない。

大分減ってきているのですよね、転居等で。600 で最初組んだのですけれども、もういらっしゃらないとか、いろんな事情で答えられなくなったっていう方が実際いらっしゃる。

○池田政策企画課特命課長　そうですね。いらっしゃると思いますが、やっぱり一番大きいのはやっぱりその年齢のシフトが。

○吉野英岐部会長　何十代っていうのがずれちゃって

○池田政策企画課特命課長　そこが特に若い方々のところが少なくなりつつある。

○吉野英岐部会長　そうか。下が少なくなって、若い年齢層の対象者が減ってしまっていると。

○池田政策企画課特命課長　そうです。

○吉野英岐部会長　それをちょっと改善しないと、そこ数字取れなくなっちゃう。

○池田政策企画課特命課長　はい。

○吉野英岐部会長　それは大きく変えるのは 2024 からなのですね。2023 は今いる現状の人たちに、最後のお願いということですけど、それとその次も継続することあるのでしたでしょうか。2024 以降も同じ人がやる可能性はありますか。

○池田政策企画課特命課長　補足調査においてはあります。

○吉野英岐部会長　要するに年齢の層がずれない限りは、いいってことですかね。

○池田政策企画課特命課長　基本的に今考えているのは、当時の属性分けの考え方を踏襲して、今やっていただいている方々をまず当てはめて、それで足りないところについて、今回募集に応じてくださった方を入れていきたいと。

○吉野英岐部会長　そうすると最長やっぱり８年ぐらい協力してもらうことになっちゃう。今もう３回やってもらって、次はもう４回目ですよね。さらにいいよって言った人は、さらに第二期みたいなとこお願いすると、８年ぐらい、８回ぐらいやってもらうことになってしまう。

○池田政策企画課特命課長　そうですね。できれば、今のいわて県民計画の期間を同じ方にやっていただけるのが望ましいというふうには考えてございます。

○吉野英岐部会長　もうずっとつき合ってくれと。委員も大変だけれど、答える人も大変だと。わかりました。趣旨としては、継続して調査を行うということだから、御協力いただける限りは該当する方については、引き続きやっていただきたいということで、該当が外れたり、様々な理由でできなくなった場合は交代をしていくと、600 っていう数を基本維持していくってことでよいですかね。
その他何か御確認したいことは。はいどうぞ。

○和川央委員　皆さんの御意見がないようですので、議事録に残しておいておきたいと思うので、あえてお話します。
　重要度・満足度に関する項目の削除についてです。部会として多数決でそうだったという

こと自体は否定するつもりはないのですけれども、もしも復活する可能性があるのであれば、その時には復活していただきたいという意見です。毎年使っていない設問なので削除するということで、調査者負担を減らそうということで削除という判断は、妥当とは思うのですけれども。一方で、部会のミッションとして、毎年の政策評価とともに、10 年とか 4 年の中長期的なＰＤＣＡを回すっていうのも一つあったかなと思います。重要度・満足度っていうのはそういった時の分析に有効だということで、残した方がいいんじゃないかとの話を差し上げたところです。そういう意見があったということは残しておいていただければというのが一点と、あと調査者負担のことをもしも問題にするのであれば、パネル調査についてはもう対象が明確になっていますので、Ｗｅｂに切り替えることも考えてもいいのではないのかと。もちろん、ペーパーを希望する人はペーパーでいいのですけれども、若い人が入力するときに手書きってすごく負担かかるのですけど、データですとバタバタバタと打ち込めますし、そうすると回答もそのままテキストベースでデータに落とし込めますので、いつかの時点で、選択制にするとか、そういったものも含めて、調査者負担を軽減する意味で検討の余地があるのではないかなというのを合わせて、コメントしておきたいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。

○池田政策企画課特命課長　今の御指摘のところは以前お伺いしておりましたので、そこのところについてもきちんと残しておきたいと思いますし、あとネット等で回答できるような手法については、少し研究をさせていただきたいと思いますので、そういったことを前向きに考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○吉野英岐部会長　こういった意見があるということでぜひ残していただきたいというご意見ですので、残しておいてください。

　そのほか。谷藤委員。

○谷藤邦基委員　ちょっと本筋から外れることなのですが、補足調査でずっと協力していただいている方々、約 600 人いるわけですけど、この方々への御礼っていうのは考えていらっしゃいますでしょうか。

○池田政策企画課特命課長　一応回答者には、些少ですが、お礼を差し上げています。

○吉野英岐部会長　毎回

○池田政策企画課特命課長　毎回

○谷藤邦基委員　クオカードか何か。

○池田政策企画課特命課長　図書カード

○谷藤邦基委員　そうですか。わかりました。そうであればいいです。

○吉野英岐部会長　増額する。

○池田政策企画課特命課長　そこはすいません。

○谷藤邦基委員　図書カードがいいのかという別の問題はある。

○吉野英岐部会長　汎用性の問題。

○池田政策企画課特命課長　額面上の問題で、金額をそのとおり送れるのは図書カードが一番よかったというところがあったのですが、確かにお話の議論もいろいろございました。

○吉野英岐部会長　本しか買えないじゃないかっていう声は聞こえて来ないとは思いますけれども、研究してもいいですかね。その別にビットコインを送れと言っているわけじゃないので、より汎用性の高いもので、同じ金額で問題なければ、それでもいいのではないかという御趣旨の発言だと思います。

ありがとうございました。

一般の方はそこまでお金をかけていないのですよね。5,000 人の方は無料でやってもらっている。誰がやっているのか分からないというのもありますからね。こっちのアンケートは答えた方がわかっているので、答えてから渡しているのでしたか。

○池田政策企画課特命課長　御回答された方に対してのお礼という形で差し上げています。

○吉野英岐部会長　わかりました。ありがとうございます。御確認済みでした。

そのほか、いいですか。若菜委員どうぞ。

○若菜千穂委員　ごめんなさい。議論戻っちゃうのですけど、「地域社会とのつながり」ところだったのですけどいいですか。以前も指摘したのですけど、これテーマ型の地域社会と、地縁型の地域社会中心に聞いている質問ってことですかね。県民の多く、特に盛岡とかに住んでいる人って、地域社会って別に地縁型、自治会とか町内会とかだけではないと思うので

すけど、この地域社会の捉え方なのですけど、テーマ型も入れた方がいいのではないかなっていう意見です。これテーマ型外していいですかっていうところなのですけど。明らかに地縁型、自治会とか町内会のことを言っているのだろうなっていう選択肢と、もう趣味とか、例えばボランティア、傾聴ボランティアとかで地域社会と繋がっている人も多いと思うので、両方わかるような、どうせ選択肢これだけ増やすなら、地縁型だけにこだわる必要ないのではないかなと思うのですけど。

○吉野英岐部会長　地域に一定、地域に限定されるとちょっときつい言い方ですけど、完全にその地域を外して全国と繋がっているっていうものでなければ、今若菜さんがおっしゃったような趣旨も入るのかな。例えば傾聴ボランティアさんとかって、決してネット上で、全国で繋がっているって意味ではないってことですよね。いかがですか。

○若菜千穂委員　地域社会とのつながり、というとらえ方なのですけれど。

○吉野英岐部会長　全くその地域的な枠を外した社会関係っていうとこまでは踏み込んでないってことでいいですか。踏み込まなくていいっていうことで。

○若菜千穂委員　踏み込んだ方がいいのではないでしょうか。

○吉野英岐部会長　そうすると地域っていう概念はもうちょっとゆるく引いてもいいみたいな。これまで３回聞いているところでは、かなり地域っていうのは限定的に聞いてしまっているので、今回はそのおそらく地域の枠組みの中で、活動の種類を少し具体的にイメージしてもらうために、設問選択肢が増えているのではないかなと私は理解しました。

なので、その辺の地域以外の活動っていうのも、人間は幾らでもやっていますので、それをちゃんと聞くのであれば、新しい選択、設問で聞くか、あるいは、次回の 2024 から入る第二次のところで、聞き方そのものを変えてしまうっていう手もないわけじゃないかなと思いましたが、継続的なことを考えると、2022 までの聞き方をベースに次回はやった方がいいかなと思っていますがいかがでしょうか。

○若菜千穂委員　一応これを残すということで、「地域社会のつながり」はあくまでも地縁。

○吉野英岐部会長　強い地縁じゃないのもありますよね。スポーツ少年団とか地縁でやっているわけじゃない。ただ地域の限定がかかっているっていうか、どこまでも、誰と組んでもいいっていうものでもないってことですよ。

○若菜千穂委員　「地域社会とのつながり」そのものをどうとらえるのかというところなの

ですけど、あれ、議論の中では、地縁コミュニティだけだったかなっていう、ちょっと忘れちゃったのですけど、地縁コミュニティに限定した地域社会とのつながりだったっけというのがあって、今の調査が、あくまでも地縁コミュニティということであれば、ちょっともうそれだけではないと思うので、テーマ型のコミュニティを否定するわけでもないですよね。

○吉野英岐部会長　そうですね。余暇の充実のところではもうちょっとあって、多分余暇の充実の中に、余暇っていうのはちょっと余った時間みたいなイメージになってあれですけど、人間の生き方を豊かにする時間っていう中で考えれば、必ずしも地域に限定する社会関係ばっかり、活動ばかりではなくって、もうちょっとこう地域と離れてはいるけれども自分の生活には非常に大事な時間だっていう人がいらっしゃると思います、それは。

後ろの方の「地域社会とのつながり」っていうのは、その中でもおそらくかなり地域特化した形で、一定のエリアの中で完結するような、活動なり社会関係っていうのが、どういうふうに実感できますかっていうような趣旨で切り分けをしているのではないかなと私は思ったのですね。地域を外しても全然大丈夫だとは思うのですよ。それは、余暇の方でむしろ聞いてもいいかな。

○若菜千穂委員　ちょっとその余暇と社会参画、社会貢献みたいなところと私は違うと思っていて。ちょっと、そういう意味ではいずれ地域社会のつながりは、地域コミュニティを連想する人って、人数的にはそんなに多くないのではないかなと思ってもいるので、いずれ、広く、もっと広く社会参画とか、そういうところまで含めた概念としてのとらえ方を今後していく必要があるのではないかと思います。よろしくお願いします。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。余暇と聞くと、余った時間っていう、自分のためだけっていう感じがしますけど、必ずしもそうじゃないように私は思っています。

○竹澤政策企画課総括長　若菜委員ありがとうございます。

この地域社会のつながりのところは、長期ビジョンの政策Ⅳの居住環境・コミュニティのところで、ここの分野が意識を把握するために設定している設問でございます。

この居住環境・コミュニティですけれども、人や地域の結びつきの中で助け合ってあって暮らすことができる岩手というものを掲げてございまして、この分野での設問に関してやはり地域との縛りといいますか、枠組みを外すのは少し難しいかなとは考えています。

ただ、若菜委員からお話がありました参画につきましては、これもまた政策分野Ｘのところで、参画という分野がございますので、そういったところで検討していくことが可能なのかなと考えております。

○吉野英岐部会長　部長からもちょっとお話が。

○小野政策企画部長　若菜先生が御指摘されたところは実はすごく重要なところでして、研究会の方に戻らないといけないなと思ったのですけれども、政策を打つという方から見ると、今課長から説明をしたとおりですが、幸福感に立ち返ったときに、「つながり」は、その人々の幸福感を実感する上で重要だといったところがあると。その「つながり」というのは、地域にくっついたものなのか、あるいは分野・テーマによるものなのかっていうところは、実はコロナを経て、研究会当時よりもいろんなつながりが増えていると思うのですよね。リモートとかでどんどん繋がっていますので、そういった時に地域でないつながり、実はその領域が広がっているってことは十分考えられます。

今の県民計画は、コロナ前の議論を踏まえて 12 領域を設定し、さらに 12 領域には「つながり」っていうところが実は入ってないのですよね。あそこは全体にまたがるものといった形で設定しているところで、県民計画では 12 領域に入っていなくて「つながり」っていうものは全体にかかるよねっていうところが、若干、県民計画の方で曖昧に位置付けていまして、県の分野の 10 番目の参画と、それからさっきのコミュニティの関係ですね、そこに少しこう寄せているところがあるのですよ。そこが今おっしゃった「つながり」の取扱いをちょっと県民計画の方では曖昧にしていると。それで今若案さんおっしゃったところのですね、いや、地縁、地域に関する繋がりだけでいいのかと、これからそれ以外のところも増えていますよというところに応えきれてないというのがですね、今の問題点だなというふうに思っております。ですので、ちょっとここはですね、宿題にさせていただきたいと思います。申し訳ありません。

○若菜千穂委員　すいません。そしたらですね。今の趣旨はわかりました。こちらの意図も伝わったと思うのでいいのですけど、地域っていう言葉がものすごく場合分けがあるので、私は県外出身なので、岩手も地域なのですよね。居住地域っていうふうに居住を足していただいたら、まだ誤解は少ないのかなと思います。

居住地域社会とのつながりみたいな感じの方が誤解せず伝わるかなと思います。

以上です。

○吉野英岐部会長　はい。ありがとうございます。居住しているというわけですね。出身地域っていうのもあるのですよね。今住んでなくても、自分がもともと育った地域には何かあったりすると立ち戻って、つながりを作っている人もいないわけじゃなくて、ちょっとなかなか難しいところがありますけど、若菜先生がおっしゃった趣旨をできるだけが反映するにはどうしたらいいかをちょっと検討していただければと思います。

ありがとうございます。時間が大体きていますので、一応県民意識調査の補足調査は、若干修正を入れて、これも実際には１月実施、２月実施かな。

○池田政策企画課特命課長　１月には実施しますが、来月ぐらいには中身を決めたいと考えています。

○吉野英岐部会長　１ヶ月以内でちょっと意見集約をしたいと思います。もう委員会は開かないので、メール等々で審議となりますので御協力お願いします。

議題ではその他になっておりますけれども、事務局より御説明したいことがあるということですので、よろしくお願いします。

○竹澤政策企画課総括長　恐れ入ります。参考資料をご覧いただきたいと思います。第２期アクションプランの策定状況でございます。この資料は、先月９月 16 日、第 100 回の総合計画審議会で説明をした資料でございます。おめくりいただきまして、２ページ目でございます。囲みのところをご覧いただきたいのですが、第２期アクションプランにおきましては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の 2050 年実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化していきたいと考えています。

このような考え方に基づきまして、第２期アクションプランにおきましては、この期間中に取組を強化すべき項目を「重点事項」と位置付けて、取組を進めていくことを考えております。策定にあたりましては、これまで市町村、企業・団体、県民など幅広く御意見を伺って参りました。また、近日、市町村長との意見交換、８月末までに 106 の団体・審議会等から御意見をいただいたところでございます。こういった意見を踏まえまして、第２期アクションプランにおきましては、人口減少対策に最優先で取り組むこととし、今後４年間で取り組みを強化する項目を重点事項として、明示したいと考えております。

恐れ入ります、３ページ目をご覧いただきたいと思います。四つの重点事項でございます。

人口減少対策に取り組む上での重点事項ということで、重点事項１　男女がともに活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します。

重点事項２　グリーン・トランスフォーメーションを推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します。

重点事項３　デジタル・トランスォーメーションを推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります。

重点事項４　災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します。

この四つの重点事項を、10 政策分野の中の、50 の政策項目がございますけれども、その中に、具体的な施策を盛り込んで、重点的に取り組んでいきたいという考えでございます。10 の政策分野の構成・構造は変えずに政策分野の中で具体の取組を盛り込み、それを強化

していくという考えでございます。

その下の中長期的な観点から維持・向上を図っていく基盤といたしまして、医療・介護・福祉、教育・学ぶ機会、地域公共交通、人や地域との「つながり」。こういったものにつきましては、中長期的な観点から、維持・向上を図っていく基盤として、記載をしていきたいと考えてございます。

また、先ほど谷藤委員からも物価高騰等のお話がございましたけれども、原油・穀物価格の高騰などへの対応につきましては、現下の危機に臨機応変に対応していく旨を記載していきたいと考えてございます。

この重点事項を盛り込みました素案につきましては、来月、11 月 14 日の第 101 回総合計画審議会で御説明し、御意見をちょうだいすることとしております。幸福部会委員の皆様にも、素案につきましては、後日送付させていただきたいと考えております。私からは以上でございます。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。何か御意見聞いた方がいいですか。

今の時点で結構ですけれども、ざっと総括課長からもお話があったことについて、こういったものを入れるべきではないか、まだ間に合いますという話だと思いますけれども、山田委員ありますか。

○山田佳奈委員　すみません。内容ではなく、年次レポートの方でちょっと関連するところがあることに気が付きましたが、いいですか。

来年度から新しい政策推進プランが始まるということでよろしいんですよね。そうしましたらですね、レポート案の３ページの表２に分析等に係るスケジュールを具体的にしていただいていると思っているのですけども、令和５年度以降のところに、矢印を新たに付け加えるということでよろしいですよね。

○吉野英岐部会長　そう。ここに政策推進プラン終わっちゃって。何も残ってないように見える。

○山田佳奈委員　そうですね。

○竹澤政策企画課総括長　ありがとうございます。

○吉野英岐部会長　レポートの方を直してもいいけどね。

○山田佳奈委員　ついでにいいですか。確認なのですけども、56 ページで、表が並んでるところで色がついているところ。これ、凡例があるとわかりやすいと思います。

○吉野英岐部会長　黄色っぽいのと青っぽいの。

○山田佳奈委員　これが何を示しているかというちょっと探してみたのですけれど、ちょっと見当たらなかったので、上の方に黄色何、青何というのをつけていただいたらどうかなと思います。

○吉野英岐部会長　これ、わかります。つけられるどっかに場所。

○池田政策企画課特命課長　スペースを見つけて付けます。

○吉野英岐部会長　ちょっとなんか、すいません。山田先生が御指摘した 56 ページ。
表のδの何とか多いですよね。
δ－1－1 とか、δ-2-1 は表δ-3-1 に表がついていない。一番左側の、表δ-4-1 も表がついていない。この色の凡例と、あと表っていうのは基本みんな左が最初のところに入っているのに、3－1 と 4-1 には入っていないので修正してください。突然気づいてしまいました。
　色の方はもっと重要な問題ですので、色について、何か意味を書いてもらえると。はいどうぞ。

○山田佳奈委員　戻ってしまって申し訳ありませんでした。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。最終版に向けて修正できるところを修正していきましょう。
　アクションプランについては何かありますか。よろしいですか。これも各方面に照会をかけていらっしゃるところで、総合計画審議会ではもちろん議題化されていますけれども、各振興局の持っている懇談会でも議論、御意見をいただけるような形で、照会がかかっていますし、各団体さんとかですね、かなり広く照会をかけて、できる限り多くの意見を拾おうという趣旨でいらっしゃるのではないかなと思いますので、幸福部会についても、もし先生方で、こういうものもあればよいのではないかということがあれば、ぜひぜひ出していただければと思います。
　じゃ、御紹介ということで、終わりにしたいと思います。
　それから先ほど資料４について説明をちょっと省きましたので、ちょっと戻りまして資料の４について、事務局より御説明お願いします。

○池田政策企画課特命課長　次年度のスケジュールの確認ということで御説明させていただきます。次年度の分析につきましては例年どおりの実感の変動要因の分析ということを

想定してございますので、今年は部会を６回実施させていただきましたが、来年度は、５回の開催ということを考えてございます。

５月に第１回、第２回を行わせていただいて、全体をまず分析した上で、６月、７月とさらに整理にさせていただいて、７月には年次レポートの素案を作成の上、政策評価に活用していくこととしております。10 月頃には、第５回ということで、年次レポートの内容を決定させていただいて、翌年度の活動計画についても確認をさせていただくというようなスケジュールを考えてございます。

次年度の開催予定につきましては以上でございます。

○吉野英岐部会長　というスケジュールで進めたいということですので、できる限り御協力をお願いしたいと思います。

それでは、私の方でいただいている事前の資料は以上ですので。

ティー先生どうぞ。

○ティー・キャンヘーン委員　ちょっとレポートに関して幾つかいくつか修正をお願いしたいと思いまして、まず５ページ。図１と図２のポイントが違いますので合わせていただければと思います。あと 12 ページ、この前も話ちょっと事前打ち合わせでお話をさせていただいたのですけども、一元配置分散分析に、データが少ないところ省いているので、それも居住年数とか、家族従業者とか、居住年数は 10 年未満ですね、そこのところも修正が必要じゃないかなと思います。

○吉野英岐部会長　分析方法のところですね

○ティー・キャンヘーン委員　②番のところです。

○吉野英岐部会長　ちょっともう一つ補足しなきゃいけない。

○ティー・キャンヘーン委員　よろしいですか。47 ページです。

米印の１。両括弧２の上で、多分漢字が違うのではないかな。立てられるの「建」は仮説を立てるじゃない。

○吉野英岐部会長　家建てるみたいな、建てるじゃなくてね、多分立ね。ちょっと大げさになってしまうのですよね。こっち。

○ティー・キャンヘーン委員　はい。それから 51 ページ。これは、この分析は先程の表ですね、δの表グラフで、できればここにデルタの表を、66 ページと同じように、ここを参

照するところがどこかというのを入れた方がわかりやすいと思います。66 ページ以降はそういう風に書いているので、できれば同じように入れた方がいいのかなと思います。

○吉野英岐部会長　何とか参照とか。紐づけですね。

○ティー・キャンヘーン委員　最後自分のところなのですが、93 ページで、例えば、70 歳の属性についてとか。

○吉野英岐部会長　これは修正がちょうど今やってもらうので、確認してもらうと。

○ティー・キャンヘーン委員　あと概要版も同じような図があって、概要版の方も２ページ目で、ポイントを合わせた方がきれいなので、できれば。何か理由があって、右側を大きくしているのであれば別ですが。

○吉野英岐部会長　すごく深読みですね、それは。そんなことはないと思いますよ。図１と図２ですね。

○ティー・キャンヘーン委員　すいません。もう一つありました。レポート 28 ページです。表 17 の上の③なんですが、平成 28 年から令和４年ではないでしょうか。そこがちょっとずれているのでそこをもう一回確認して欲しいと思います。

○吉野英岐部会長　はい。

すいません。事務局さん忙しいところ、申し訳ないのですけれど、正確に書くにこしたことはないので、委員の 14 個の目で見ているからだと思いますが、別に非難しているわけじゃないので、正確なものを最後に送り出したいということですので、よろしくお願いいたします。

他の委員の皆さんも遠慮なくじゃないですけど。その都度その都度、事務局の方に出していただければと思いますのでよろしくお願いします。

はい、じゃ、私から以上です。

事務局の方にお返ししたいと思います。

○高橋政策企画課評価課長　長時間にわたりまして、御議論をいただきありがとうございました。本日で今年度の部会での審議も終了となりますので、小野政策企画部長から一言御挨拶させていただきます。

○小野政策企画部長　委員の皆さんは、６回にわたり非常に集中的な分析部会の御審議、意

見交換、御議論いただきまして、本当にありがとうございました。

また、特に当部会においては、事前にお送りした膨大な資料を読み込まれて、データをご覧なった上で、部会に臨むという状況になっておりまして、おそらく、県庁の審議会委員会部会の中でも、最も委員の皆様に御負担をおかけしている会合であろうというふうに思います。改めて、御礼申し上げます。

先ほど総括課長からお話がございましたけれども、今年度で第１期のアクションプランが終了し、来年４月から第２期に入ります。といったことで、今、評価と政策が一緒になって、次のアクションプランの策定に取り掛かっておりますけれども、そのポイントといたしまして、人口減少、次の４年間でこれにしっかりと取り組んでいかなきゃいけないと考えております。それ以外にも、様々な直面する課題がございます。その中で、さっきの資料の中で、人口減少関係で四つの柱を立てましたけれど、プラス「人や地域とのつながり」といったところも、本分析部会の御議論を踏まえまして、その中に入れてですね、次の４年間で、しっかりと回復させていかなければいけないといった考えに至っております。

委員の皆様には、ぜひ引き続き、様々な専門的な観点から御指導いただきながら、まずは我々の方で次の４年間をどうしていくのかについて組み上げて参りたいと思いますので、引き続き、それについてどうなっているかといった観点から御意見を頂戴したいと思います。特に、プラスで４年間あるいは計画全体 10 年間といったような、中長期的なスパンでも御意見をいただける数少ないと言っては、他の委員会の皆さんに申し訳ないのですけども、専門的に御発言いただける貴重な分析部会というふうに認識しておりますので、引き続き、御指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度も本当にありがとうございました。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。

○高橋政策企画課評価課長　それでは、今後は、本日頂戴いたしました御意見を踏まえて、レポートを完成させた上で、11 月に開催されます総合計画審議会において、レポートの概要について部会長より御報告いただく予定としてございます。

それでは以上をもちまして、本日の部会を終了いたします。

ありがとうございました。